

高齢者福祉について ～重層的支援体制整備事業、孤独・孤立対策～

厚生委員会資料
令和5年11月7日
福祉計画課

1. 重層的支援体制整備事業

■品川区が目指す重層的支援体制

それぞれの相談拠点の強みを活かしつつ、十分に連携が図れるような機能連携型の包括的相談支援体制を確立し、誰かに、どこかにつながる地域共生社会の構築とともに、望まない孤独・孤立を発見し伴走しながら支援する

①. 現状と課題

- ・複合課題や狭間のニーズなど既存の制度では対応が困難な課題の増加とともに、地域や家族など人と人とのつながりが希薄化することで、「生きづらさ」を抱える人が増加している
- ・現状の制度や仕組みでの対応が難しいケースが増え、「支援のしづらさ」を感じている人がいる

②. 国の動き

- ・平成29年(2017年) 改正社会福祉法(地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律による改正)により、包括的な支援体制の整備が市町村の努力義務とされる
- ・令和元年度(2019年度) 厚生労働省に「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会(地域共生社会推進検討会)」が設置
- ・令和3年度(2021年度) 地域共生モデル事業が重層的支援体制整備事業として法定化

③. 各事業の概要

- ・重層的支援体制整備事業における各事業の内容は社会福祉法第106条の4第2項に規定している。
- ・「属性を問わない支援」、「参加支援」、「地域づくりに向けた支援」の3つの支援を一体的に実施する

包括的相談支援事業	・属性や世代を問わず包括的に相談を受け止める
参加支援事業 (社会福祉法第106条の4第2項第2号)	・社会とのつながりを作るための支援を行う ・利用者のニーズを踏まえた丁寧なマッチングやメニューをつくる ・本人への定着支援と受け入れ先の支援を行う
地域づくり事業 (社会福祉法第106条の4第2項第3号)	・世代や属性を超えて交流できる場や居場所を整備する ・交流・参加・学びの機会を生み出すために個別の活動や人をコーディネートする ・地域のプラットフォームの形成や地域における活動の活性化を図る
アウトリーチ等を通じた継続的支援事業 (社会福祉法第106条の4第2項第4号)	・支援が届いていない人に支援を届ける ・会議や関係機関とのネットワークの中から潜在的な相談者を見つける ・本人との信頼関係の構築に向けた支援に力点を置く
多機関協働事業 (社会福祉法第106条の4第2項第5号及び第6号)	・区全体で包括的な相談支援体制を構築する ・重層的支援体制整備事業の中核を担う役割を果たす

④. 区の実施状況

R3 課題整理 ▶ R4 移行準備開始:他自治体状況把握、庁内検討会、推進会議、職員向け研修 ▶ R5 多機関協働事業(ケース検討)、参加支援・地域づくりの仕組み検討(地域活動・サービス情報共有システムの導入含む)、(職員研修) ▶ R6 参加支援・地域づくりのモデル実施等 ▶ R7 **本格実施**

2. 孤独・孤立対策

■品川区が取り組む方向性

- ・品川区地域福祉計画へ重層的支援体制整備事業に併せ、組織横断的な取組みとして位置付ける
- ・区における孤独・孤立の実態を把握・分析し、必要な対策を検討する
- ・法に規定する「孤独・孤立対策地域協議会」を設置する

①. 孤独・孤立がなぜ問題か

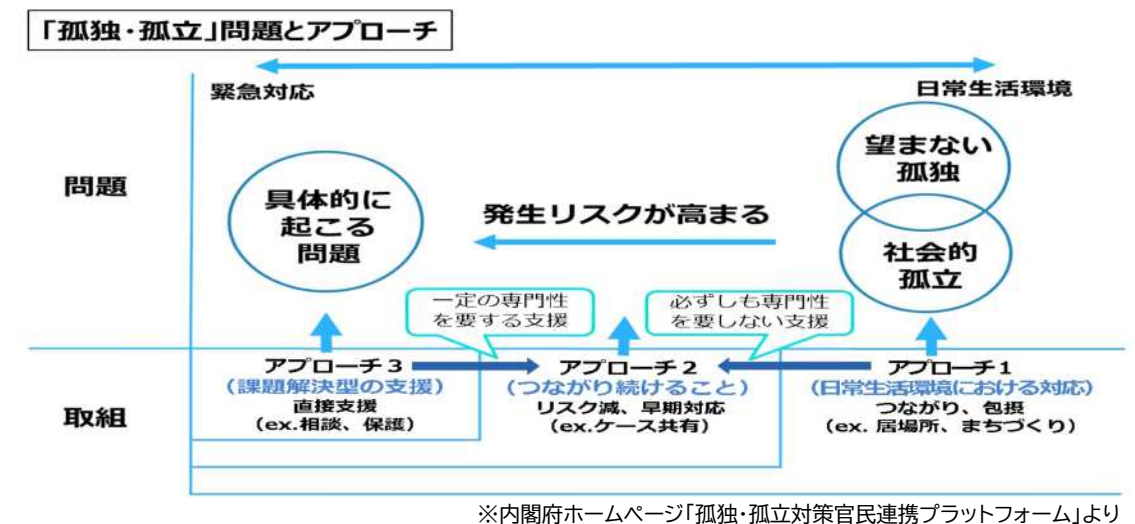
望まない孤独・孤立は、心身への影響があり、自殺、DV、虐待、不登校、孤立死等につながるリスクがあるため

②. 国や他自治体の状況

- ・令和4年度(2022年度) 地方版「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」推進事業 開始
R4実績 29団体(都道府県・政令指定都市12団体・市区町村17団体)
R5実績 一次募集15団体(都道府県・政令指定都市5団体・市区町村10団体)
二次募集6団体(都道府県・政令指定都市1団体・市区町村5団体) ←品川区参加

- ・令和5年(2023年)5月 **孤独・孤立対策推進法**の成立(令和6年4月施行)

(趣旨) 近時における社会の変化を踏まえ、日常生活若しくは社会生活において孤独を覚えることにより、又は社会から孤立していることにより心身に有害な影響を受けている状態にある者への支援等に関する取組みについて、その基本理念、国等の責務、施策の基本となる事項および孤独・孤立対策推進本部の設置等について定める



③. 区の実施状況

各部署が、それぞれの事業を通して、孤独・孤立対策にもつながる支援を行っている

<今後の取組み>

- ・プラットフォーム参加自治体の施策情報の共有(事例調査、勉強会・自治体シンポジウムへの参加)
- ・品川区の実態調査(アンケート調査、区内活動団体・ネットワーク等の洗い出しおよびヒアリング)
- ・「(仮称)品川区孤独・孤立対策地域協議会」の設置(R6)
- ・品川区孤独・孤立対策シンポジウムの開催(R6)による発信
- ・重層的支援体制整備事業でのケース検討
- ・必要に応じた新たな施策の検討

高齢者福祉について ～認知症・フレイル予防～

厚生委員会資料
令和5年11月7日
高齢者地域支援課

3. 認知症とともに生きる総合的な施策の推進～共生・予防～

■国の「認知症施策推進大綱」における「共生」と「予防」を踏まえ、事業を推進していく。

「共生」 認知症の人が尊厳と希望を持って認知症とともに生きる、また、認知症があってもなくても同じ社会でともに生きるという意味。

■認知症サポーターの養成

認知症高齢者の理解を地域に浸透させ、地域の中で見守ることができる仕組みづくりに取り組む。

<実績>

○認知症サポーター養成講座

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
認知症サポーター養成講座	36回	47回	43回
養成講座受講者数（累計）	18,378人	19,060人	19,986人



○夏休み小学生向け認知症サポーター養成講座 **New**

令和5年8月8日開催：参加者45人（保護者含む）

○認知症サポーター企画会議（サポーターとしての活動や取り組みを企画する）

令和4年度：5回開催・参加者延べ97人

令和5年度：4回開催・参加者延べ73人 ※全7回開催予定

○オレンジフェスタの開催 **New**

経緯：認知症サポーター企画会議の中で、テーマを「9月世界アルツハイマー月間（認知症月間）にできる取り組み」として設定し、オレンジフェスタの企画・実施へとつながった。

内容：オレンジキャンドルづくり・子ども向け認知症クイズ・芋煮・認知症カフェブース・認知症本人と介護事業所による創作物販売、買い物ウォーキングなど

「予防」 「認知症にならない」という意味ではなく、「認知症になるのを遅らせる」「認知症になっても進行を緩やかにするという意味。

■認知症検診事業「もの忘れ検診」（令和4年度開始事業）

医師会および協力医療機関により、令和5年度から検診実施場所、実施期間を拡大して実施。

■高齢者補聴器購入費助成事業 **New**

令和5年7月より助成事業を開始。また、事業開始に先立ち講演会を開催するなど普及啓発を実施。

<概要および実績>

○認知症検診事業

【対象】今年度中に75歳になる区民を対象に受診券を4,223人分発送

【期間】令和5年6月20日～令和5年12月末日 【登録医療機関】30カ所

【変更点】運転免許更新時の認知機能検査の代用・訪問看護師による検診後支援開始

令和4年度	
件数	246件
受診率	5.00%
疑いあり	54件
陽性率	22.0%

○高齢者補聴器購入費助成事業

【対象】65歳以上 【所得制限】本人住民税非課税

【聴力】中等度難聴 【助成額】35,000円（上限）

【要件】医師による診断および認定補聴器技能者等による適合状態の確認

令和5年9月末時点	
申請	150件
助成決定	61件
助成数	22件

4. 健康づくりと介護予防サービスの充実（フレイル予防）

■高齢者の約8割は元気で活動的な生活を送っている。健康づくりを支援する事業の充実を図り、健康寿命の延伸を目指して、一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組みことを支援する。

■主な事業

<運動系介護予防事業>

○カラダ見える化トレーニング

筋力や歩行姿勢などを専用機器で測定し見える化し、「感覚」に頼らず客観的なデータに基づいて運動器の機能向上を目指す。

R4実績 3箇所 実施回数864回 延べ参加者数8,993人

○マシンでトレーニング

高齢者専用トレーニングマシンを使って日常生活に必要な筋力をアップする運動。

R4実績 5箇所 実施回数429回 延べ参加者数3,544人

○うんどう機能トレーニング

日常生活に必要な筋力や体力をアップする運動。

R4実績 7箇所 実施回数239回 延べ参加者数2,500人

○ふれあい健康塾

閉じこもりがちで足腰の弱ってきた人を対象とした、転倒骨折予防のための体操と遊びや生活指導を盛り込んだ健康教室。

R4実績 施設数13 実施回数154回 延べ参加者数1,915人

<認知症予防事業>

○脳力アップ元気教室

学習療法と脳活性化エクササイズ等の軽い運動を組み合わせた認知症の予防を目的。

R4実績 4箇所 実施回数160回 延べ参加者数2,005人

○計画力育成講座

グループで日帰り旅行を計画・実践することを通じ、計画力をアップさせ認知症の予防を目的。

R4実績 3箇所 実施回数24回 延べ参加者数196人

<栄養改善事業>

○シニアのための男の手料理教室

買い物の仕方から一人分を簡単につくる調理の実習や、低栄養を予防するための講習などを行い栄養改善を推進。

R4実績 2箇所 実施回数40回 延べ参加者数296人

○わくわくクッキング

栄養バランスの良い簡単な調理実習を行い、口腔ケアをはじめとした健康的な食生活を学び、低栄養予防を推進。

R4実績 4箇所 実施回数130回 延べ参加者数705人